



2021年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2021年1月29日

上場会社名 株式会社 帝国ホテル
 コード番号 9708 URL <https://www.imperialhotel.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 経理部長
 四半期報告書提出予定日 2021年2月5日
 配当支払開始予定日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
 TEL 03-3504-1111

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第3四半期の連結業績(2020年4月1日～2020年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第3四半期	16,632	61.6	8,439		5,579		8,685	
2020年3月期第3四半期	43,363	1.7	4,212	5.7	4,406	5.1	3,058	5.1

(注) 包括利益 2021年3月期第3四半期 8,629百万円 (%) 2020年3月期第3四半期 3,146百万円 (2.4%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期 純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第3四半期	146.41	
2020年3月期第3四半期	51.55	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年3月期第3四半期	68,767	51,523	74.9
2020年3月期	79,572	60,627	76.2

(参考) 自己資本 2021年3月期第3四半期 51,523百万円 2020年3月期 60,627百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期		8.00		8.00	16.00
2021年3月期		0.00			
2021年3月期(予想)					

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

・当期末の配当につきましては、現時点では合理的な業績予想の算定が困難であるため記載しておりません。今後予想の開示が可能となった段階で速やかに公表いたします。

3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日～2021年3月31日)

・2021年3月期の業績予想につきましては、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大により当社グループは未曾有の影響を受けており、今後の業績への影響については依然として不透明な状況に変わりはなく、現時点では合理的な算定が困難であるため記載しておりません。今後業績予想の開示が可能となった段階で速やかに公表いたします。詳細については、添付資料2ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年3月期3Q	59,400,000 株	2020年3月期	59,400,000 株
期末自己株式数	2021年3月期3Q	75,988 株	2020年3月期	75,956 株
期中平均株式数(四半期累計)	2021年3月期3Q	59,324,031 株	2020年3月期3Q	59,324,056 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている将来に関する記述は当社が現在入手している情報及び合理的と判断する一定の前提に基づいており、実績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大や政府の緊急事態宣言に伴う経済活動の停止により景気は急激に悪化し、企業収益の激減や雇用所得環境が大きく変容するなど極めて厳しい状況となりました。

ホテル・観光業界は最も深刻で直接的影響を受け、渡航制限によりインバウンド需要が一気に消滅し、政府の外出やイベントの自粛要請に伴い営業活動の大幅な縮小を余儀なくされるなど、過去に例を見ない危機的な状況に直面いたしました。

この未曾有の状況のもと、当社グループにおきましては、顧客と従業員の安全と安心の確保を最優先課題と捉えて事業活動を行ってまいりました。政府方針に則り、ホテル主催イベントの自粛や食堂の店舗休業ならびに営業時間短縮を行い、全従業員がマスク着用や手洗い消毒、最小限の出勤体制を徹底して感染拡大防止策を講じるとともに、社会生活の基盤となる安定した雇用の継続に努めるなど鋭意取り組んでまいりました。

また、業務効率の向上を徹底し、全社的なコストを抜本的に見直すことはもとより、政府が行う様々な経済対策や支援策も活用しながら経費執行を必要最小限に止め、利益の確保にグループ一丸となって注力してまいりました。

しかしながら、4月7日の緊急事態宣言に伴い全事業所における営業活動の縮小等を余儀なくされ、第1四半期連結会計期間は極めて厳しい結果となりました。

続く第2四半期連結会計期間では、「インペリアルバイキング サール」において「新しい生活様式」に対応したバイキングスタイルを導入するなど、新常态（ニューノーマル）に向けた新たなサービススタイルを開発提供し、回復の兆しが見えてまいりました。

当第3四半期連結会計期間に入り、「Go To トラベルキャンペーン」の対象に東京都が加わった効果等により需要は一旦回復しましたが、その後新型コロナウイルス感染症流行の第3波に伴う感染者数の激増、同キャンペーンの一時停止などにより、再び厳しい状況に後戻りしました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における当社グループの売上高は前年同期比 61.6%減の 16,632 百万円となり、費用削減を徹底的に進めましたが固定費負担が重く、営業損失は 8,439 百万円、経常損失は 5,579 百万円、親会社株主に帰属する四半期純損失は 8,685 百万円となりました。

セグメントの業績におきましては、ホテル事業の売上高は前年同期比 65.8%減の 13,824 百万円、営業損失は 8,548 百万円となり、不動産賃貸事業の売上高は前年同期比 4.0%減の 2,823 百万円、営業利益は前年同期比 4.2%増の 1,621 百万円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

総資産は、前連結会計年度末に比べて 13.6%減少し 68,767 百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末に比べて 12.9%減少し 38,276 百万円となりました。これは現金及び預金の減少などによるものであります。固定資産は、前連結会計年度末に比べて 14.5%減少し 30,491 百万円となりました。これは投資有価証券の減少などによるものであります。

流動負債は、前連結会計年度末に比べて 27.7%減少し 4,650 百万円となりました。これは賞与引当金の減少などによるものであります。固定負債は、前連結会計年度末比微増の 12,593 百万円となりました。

純資産は、前連結会計年度末に比べて 15.0%減少し 51,523 百万円となりました。これは親会社株主に帰属する四半期純損失の計上などによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後の見通しにつきましては、速やかに公表することを目指しておりますが、「(1) 経営成績に関する説明」に記載の通り、年間を通して業績の変動が大きく、足元においては緊急事態宣言が再度発出されたことで需要が再び激減しており、その影響を現時点において適切に予想し、業績を合理的に算定することが困難であるため記載しておりません。

当社は2020年11月3日に開業130周年を迎えました。人が集うことができなくなってしまった今だからこそ、集うことの大切さを見失わないようにとあらためて決意し、開業記念日当日には「集う。その力を信じている。」という広告を新聞に掲載しました。その思いを持ち続け、現在は、顧客と従業員の安全と安心の確保を最優先とする「守り」重視のシフトとしながら、今後その終息とともに「攻め」へと転じて、国内顧客の利用増に向けた販売促進を積極的に展開し、売上の回復に全力を注いでまいります。

なお、最終年度となる「中期経営計画2020」につきましては、引き続き4つの重点課題に取り組み「ソフトウェア」「ヒューマンウェア」の研鑽に努め、感染症の終息を見据えて現場力の強化に注力するとともに、「新しい生活様式」に対応した各種サービスの提供や新たな価値創造に努めてまいります。

同時に、SDGs（持続可能な開発目標）を積極的に推進するべく体制を整備し、環境対策や働き方改革など新たな時代の要請に応じた企業活動の遂行に努め、さらなる企業価値向上と持続的成長を目指してまいります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	27,231	19,782
売掛金	1,664	2,014
有価証券	13,704	14,407
貯蔵品	624	734
その他	704	1,341
貸倒引当金	△2	△5
流動資産合計	43,926	38,276
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	13,220	12,135
その他（純額）	5,426	5,578
有形固定資産合計	18,647	17,713
無形固定資産		
投資その他の資産	1,186	1,157
投資有価証券	8,045	7,018
その他	7,766	4,601
投資その他の資産合計	15,812	11,620
固定資産合計	35,645	30,491
資産合計	79,572	68,767
負債の部		
流動負債		
買掛金	619	969
未払法人税等	163	7
未払費用	1,445	1,628
前受金	973	862
賞与引当金	1,209	196
その他	2,017	986
流動負債合計	6,429	4,650
固定負債		
退職給付に係る負債	6,844	6,961
資産除去債務	987	996
長期預り金	4,564	4,454
その他	119	181
固定負債合計	12,516	12,593
負債合計	18,945	17,244

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,485	1,485
資本剰余金	1,378	1,378
利益剰余金	57,601	48,441
自己株式	△89	△89
株主資本合計	60,375	51,215
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	669	782
退職給付に係る調整累計額	△418	△474
その他の包括利益累計額合計	251	307
純資産合計	60,627	51,523
負債純資産合計	79,572	68,767

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
売上高	43,363	16,632
材料費	8,878	3,216
販売費及び一般管理費	30,271	21,855
営業利益又は営業損失(△)	4,212	△8,439
営業外収益		
受取利息	26	27
受取配当金	27	28
持分法による投資利益	48	30
雇用調整助成金	-	2,667
その他	90	106
営業外収益合計	193	2,859
経常利益又は経常損失(△)	4,406	△5,579
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失(△)	4,406	△5,579
法人税、住民税及び事業税	860	13
法人税等調整額	487	3,091
法人税等合計	1,348	3,105
四半期純利益又は四半期純損失(△)	3,058	△8,685
親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	3,058	△8,685

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失 (△)	3,058	△8,685
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△17	111
退職給付に係る調整額	98	△56
持分法適用会社に対する持分相当額	7	1
その他の包括利益合計	88	56
四半期包括利益	3,146	△8,629
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,146	△8,629

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(追加情報)

新型コロナウイルス感染症の影響に関して、当社は現時点では、厳重な対策を実施した上で事業活動を継続しております。

しかし、新型コロナウイルス感染症は経済、企業活動に広範な影響を与える事象であり、また、今後の広がり方や収束時期等を予想することは困難なことから当社は外部機関による分析や情報を踏まえて、2021年4月以降も一定期間にわたり影響が継続するとの仮定のもと、繰延税金資産の回収可能性等の会計上の見積りを行っております。

これらの仮定の下、当第3四半期連結会計期間末における繰延税金資産の回収可能性等を検討した結果、税効果会計における企業分類は第2四半期連結会計期間末と同様と判断し、法人税等調整額に3,091百万円を計上しております。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	ホテル事業	不動産 賃貸事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	40,437	2,925	43,363	—	43,363
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	15	15	△15	—
計	40,437	2,941	43,378	△15	43,363
セグメント利益	4,551	1,556	6,107	△1,894	4,212

- (注) 1 セグメント利益の調整額は、各報告セグメントに配賦していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
 2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	ホテル事業	不動産 賃貸事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	13,824	2,807	16,632	—	16,632
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	15	15	△15	—
計	13,824	2,823	16,647	△15	16,632
セグメント利益 又は損失 (△)	△8,548	1,621	△6,927	△1,512	△8,439

- (注) 1 セグメント利益又は損失の調整額は、各報告セグメントに配賦していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
 2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。